

稜友

September 2025, No.366



奈良俣川 洗ノ沢

新潟稜友会

Homepage <http://niigataryoyu.wixsite.com/niigata-ryoyu>

巻頭言

自宅のカレンダー、9月のイラストは月とウサギでした。2匹の影絵のウサギは餅つきをして、それを食べながらお月見。さらに酒盛りへと進み、最後は酔いつぶれて寝てしまいます。

月が楽しい想像の源であり続けられる様、野放図な資源開発などとは無縁であることを願います。

今年、中秋の名月が見られるのは、10月6日です。

(小川)

会員の山行状況(2025年8月) 新潟稜友会メーリングリストより

日程	山域(形態)	メンバー
2025/08/03	弥彦 宝川沢(沢登り)	L海老名、野口、他1名
2025/08/14	甲子山 阿武隈川 南沢(沢登り)	L 海老名、曾我、野口
2025/08/18-19	奥利根 檜俣川 洗ノ沢(沢登り)	L 野口、木嶋
2025/08/17-19	双六谷 と 黒部源流(沢登り)	須藤、他2名
2025/08/21-23	針ノ木岳～爺ヶ岳(縦走)	中村
2025/08/24	祝瓶山 角檜沢 下ノ沢(沢登り)	L 野口、海老名、曾我
2025/08/31	白毛門 白毛門沢(沢登り) ～公募山行～	L 海老名、中村、曾我、野口、 他2名

2025 年 例会・巻頭言・編集担当・例会日一覧

月	例会テーマ(担当)	巻頭言	編集担当	例会日
1 月	気象・山行の適否(須藤)	須藤	小川	1/15(水)
2 月	雪崩(三木)	野口	中村	2/19(水)
3 月	装備点検(橋本(寅))	橋本	野口	3/19(水)
4 月	山の食事(曾我)	肥后	三木	4/16(水)
5 月	クライミング技術(野口)	阿部	海老名	5/21(水)
6 月	ファーストエイド(関川)	池上	関川	6/18(水)
7 月	暑気払い(野口)	海老名	小川	7/16(水)
8 月	募集山行準備(海老名)	大島	中村	8/20(水)
9 月	ナビゲーション(中村)	小川	野口	9/17(水)
10 月	事故の事例研究(未定)	木嶋	三木	10/15(水)
11 月	総会に向けて	佐藤	海老名	11/19(水)
12 月	総会	鈴木	関川	12/(日) * 未定

なお、例会担当者は市民会館の駐車場を利用できます。

月報締切日は月末、発行日は翌月 15 日

2025 年 会山行予定

日程	山行形態	山域	担当
2 月 2 日	雪上訓練 (※ビーコン訓練含む)	未定	海老名、須藤
5 月 25 日	岩場トレーニング	杉滝岩	海老名
5 月～6 月	山スキー	富士山	曾我
8 月 31 日	沢登り・募集山行	白毛門沢	海老名、
9 月 14-15 日	沢登り	室谷川	野口
未定	スラブハイク	未定	未定

山行報告

日程	山域(形態)	メンバー
2025/08/14	甲子山 阿武隈川 南沢 (沢登り)	L 海老名、曾我、野口
2025/08/18-19	奥利根 櫓俣川 洗ノ沢 (沢登り)	L 野口、木嶋
2025/08/21-23	針ノ木岳～爺ヶ岳 (縦走)	中村
2025/08/24	祝瓶山 角櫓沢 下ノ沢 (沢登り)	L 野口、海老名、曾我
2025/08/31	白毛門 白毛門沢 (沢登り) ～公募山行～	L 海老名、中村、曾我、野口、 他 2 名

甲子山 阿武隈川源流 南沢 (沢登り)

2025 年 8 月 14 日 曇り時々晴れ

Ldr 海老名、野口、曾我 (記録)

Ldr 海老名さんの計画で阿武隈川源流南沢へ沢登り。甲子山は「かしざん」と読むらしい。下山するまで「こうしやま」だと思っていた・・・。甲子温泉から少し離れた登山者用のスペースに駐車する。駐車車両は 6～7 台いた。08:20 頃歩き出し。同時スタートの 1 グループ 2 名は白水沢を遡行すること。

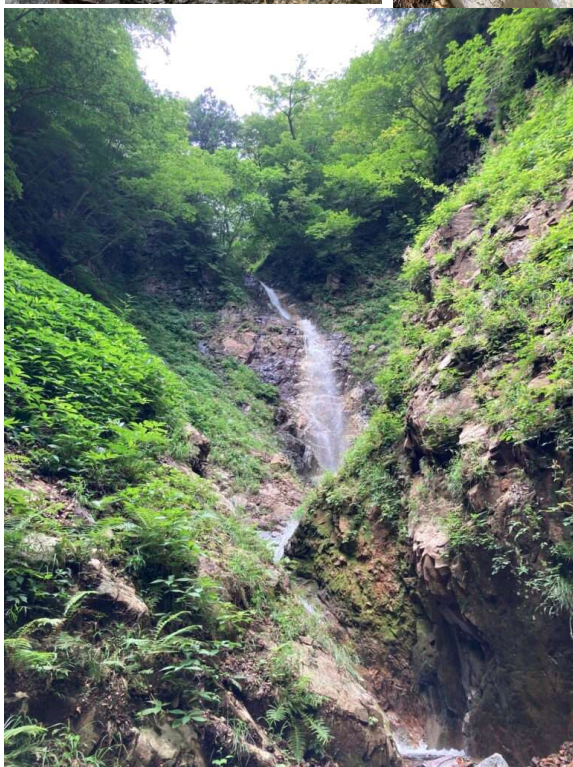
沢と並行する林道を歩いてトンネル間を大きく架かる橋の下を通過したあたりから尾根を降り、入渓する。直後に休憩中の 1 グループ 2 名の先行者を追い抜く。結局このあとにはほかの遡行者に会うことはなく、静かな遡行となった。

天気は曇り、時々晴れ間が見え光が差し込むが、真夏とは思えないほど冷える。途中からカッパを着込んだ。登れそうな滝はすべてロープを出して登った。登攀自体はそれほど難しさは感じなかったが、岩が脆く、泥壁のようにになっている部分もあり、リードしてくれた L え、のさんはハーケン、カムセットで苦勞されていた。滝は結局 7 箇所くらいあっただろうか。最後の滝だけリードさせてもらおう。おあつらえ向きに枝や平らなポイントがあり、教科書通りの中間支点と後続のビレイを行えたように思う。

最後の滝を通過してほどなく 1350m 地点の出会いに出る。右股を甲子山山頂を目指して直接詰めるような話も出たが、左股のほうが緩やかそうということでそちらを進むことに。斜度は緩く、藪も薄く、楽に登山道に出ることができた。ほどなくして 15:10 頃、山頂に出るが、ちょうど上部だけガスがかかっていて眺望は得られなかった。

幅広で緩やかな登山道を下山し、温泉宿の敷地内(地図上にもある正規の登山道のような)を歩いて 16:40 頃駐車ポイントに戻った。ルート上の滝は高巻きせずにすべて登ったことになる。難しさも感じたが、主に岩の脆さと泥壁への不安によるものであり、2 級と言われればそうかも・・・という感触であった。

前回の灰ノ又の遡行とはうってかわってほぼ虫に絡まれることがなかったのは幸いだった。ギャップがすごい！



今回の反省点。

- やはりまだ自身でリードできるかどうかの判断が微妙だ。ただ最後の滝だけは「いける！」と思っていたので、登攀を支点・システム構築まで通して間違いなく行えたのはよかった。
- バイルをホルダーに収める方法がどうしても落ち着かない。次回までに改善策を考えねば・・・。
- ロープいっぱい！と叫ぶ時点で自身にロープを結んでおかなければいけない(ロープを引き上げられてしまった)。失敗。
- 沢詰めはもっと厳しくてもよかったかもしれない(！？)

針ノ木岳～爺ヶ岳（縦走）

2025 年 8 月 21 日～23

メンバー: 中村(単独)

21 日、6 時過ぎに扇沢に着くが、平日というのに爺ヶ岳登山口の駐車場は満車だった。すぐ上の扇沢第 2 駐車場(無料)は幾分空きがあった。6 時 50 分針ノ木登山口を出発。大沢小屋の手前に湧き水があり給水。大沢小屋を過ぎてしばらくすると沢沿いの道になるが、雪渓は後退しており雪渓を歩けるような状態ではなかった。天気は良いが吹きおろしの風が涼しくあまり汗もかかない。下山してきた登山者に「針ノ木小屋はポンプが故障して水不足なので、最終水場で給水してきてほしい」と伝えられる。小屋から 150m 下の最終水場にも看板が設置しており、ここで 3 リットル汲む。小屋の従業員も 20 リットルのタンクで水汲みに来ていた。11 時に針ノ木峠に着く。テント場は小屋の南側にあり槍穂高方面を望める。雲がかかってよくわからない。「外トイレは無料。小屋の中のバイオトイレは 100 円」ということだったが、外トイレ(「槍見」という看板がかかっている)は和式ボットンながら清潔で臭いもなく快適だった。テント設営後蓮華岳を往復し、小屋に戻ってビールを飲む。ちなみにビールの 350ml 缶と発泡酒の 500ml 缶が同じ値段だったので、迷わず発泡酒を選んだ。



針ノ木雪渓のノド



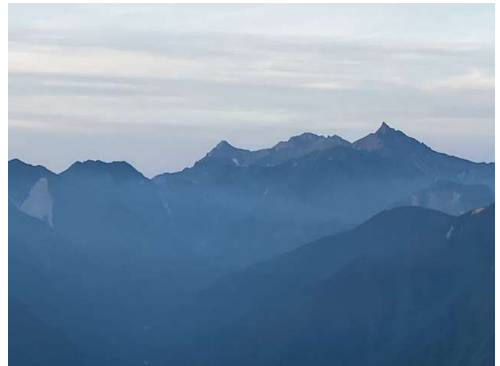
針ノ木岳と小屋

22 日、5 時に出発し 1 時間で針ノ木岳に着く。昨日まで針ノ木岳に隠れて見えなかった剣、立山方面も見えるようになる。針ノ木岳に立つと北は白馬とその向こうに妙高山、南は槍穂高、黒部川をはさんで毛勝から薬師まで一望できまさに北アルプスのど真ん中にいる感じがする。今日は雲がないので稜線のつながりからほとんどの山が同定できる。針ノ木岳からスバリ岳を経て赤沢岳に向かう。結構急だが、はしごや鎖、ロープの設置の少ないコースだ。日差しは強いが、終始西から風が吹いているのでほとんど汗はかかない。赤沢岳から黒部方面に伸びる西北尾根はゴジラの背のように見える。2009 年 4 月の京都府立大学の鳴沢岳の遭難事故では、エスケープルートとしてこの尾根が書かれていたらしいが、ここから見る限りこの尾根をエスケープルートにするのは無理がある。登ってきた鳴沢岳西尾根を下の方がよほど合理的だと思う。新越山荘でトイレを借りる(200 円)。新越山荘

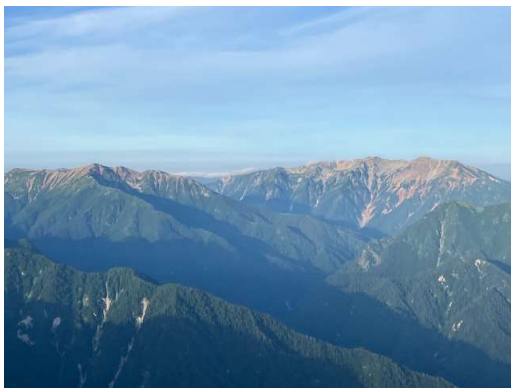
からは比較的緩やかな道になる。私の前を山荘のボッカと思われる人が歩いている。時折大声を出したり、石を谷に落としていたりしている。聞いてみると、熊の目撃情報があるので威嚇しているのだとか。13時に種池小屋に着くとテント場には熊よけの一斗缶がつるしてあった(たたくことはなかったが)。



針ノ木岳にて



槍穂高と東鎌尾根



薬師岳と赤牛岳



赤沢岳の雷鳥親子

23日、4時に出発して爺ヶ岳中間峰まで往復した。山頂で日の出を迎えた。テント場への帰途、山荘付近でまさかの熊との遭遇。登山道から20mほど離れたチングルマのお花畑の中を小熊が悠々と歩いていた。近くに人間が複数人いるにもかかわらず、気が付いていないようだった。近くに母熊がいると思われるので静かに離れた。テント場に戻り朝食をとり、テントを撤収して下山した。2泊3日のテント縦走は久しぶりだったが、思ったより歩けた。



爺ヶ岳から剣立山



種池山荘付近の小熊

奈良俣川 洗ノ沢(沢登り)

2025 年 8 月 18 日～19 日 晴れ

メンバー:Ldr 野口(記)、木嶋

8 月は虫のいない沢へ

石積みの巨大な奈良俣ダムを通り過ぎ、
林道ゲート前で駐車

8:30 歩き出す

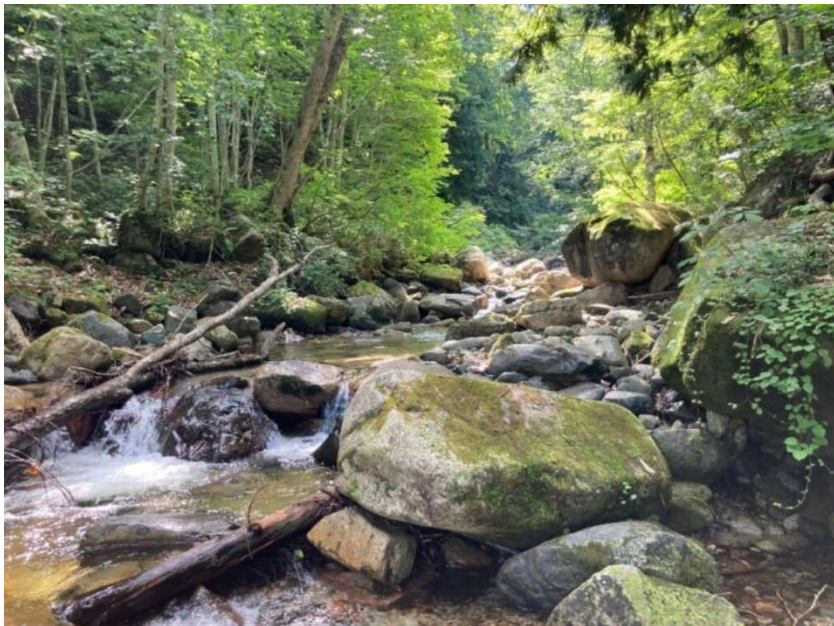
9:20 林道が沢にぐっと近づくあたりで踏み跡を辿って沢へ下り、入溪



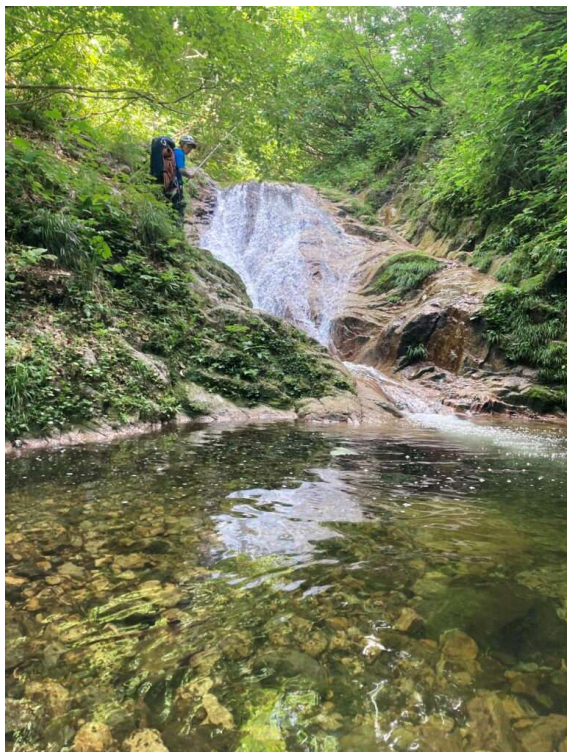
ゲート前駐車スペースで身支度。虫はほぼいない



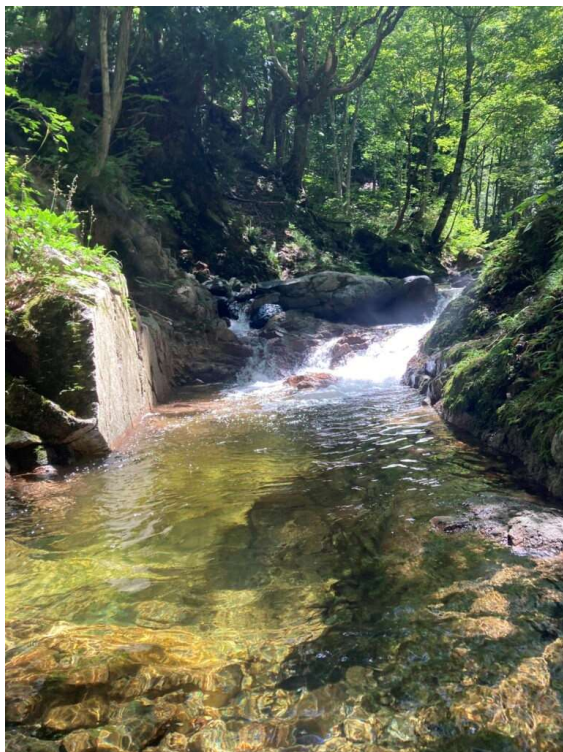
この辺に不明瞭ながら踏み跡あり



沢は広く明るく、美しい



綺麗な水の誘惑に負けて竿を出す



終始癒し。結局ロープは不要だった…

標高 1100m 辺りからちょいちょい竿を出す

お盆連休の直後だったので釣れないかな、と思っていたが意外にも釣れた

足元を飛び出す魚影は小さかったが、釣れたイワナは串焼きにちょうど良さそうなサイズで身も太かった

14:50 標高 1250m あたりの左岸に幕営

どの記録を見てもオススメされている幕営地で、だいぶ快適だった



快適幕営地



今夜はカレー

最近焚き火にハマっている木嶋さんがサクッと火を熾し調理を始めた
野口は釣りへ向かう
50m ほど上流に淵があり、そこで良型のが2匹釣れた



酒がすすむ

夕飯は食当木嶋さんのご馳走
缶詰カレー（直火で温められる）、目玉焼き&焼き夏野菜のトッピング
カレーはご飯がすすみ、お腹いっぱいになったところで、
イワナの唐揚げ、魚が釣れなかった場合に備えたウィンナーと続く
もうパンパン！となった後にイワナの焼き枯らし
食べきれず朝食のオカズとなった
ふー満足

翌日、暑くなる前に笠ヶ岳へ詰め上げようと4時起床、6時出発としタープの下でシュラフカバーと
防虫ネットを被ってごろりとした
深夜に寒くて目が覚め、火を熾してしばらく温まってからまたごろり

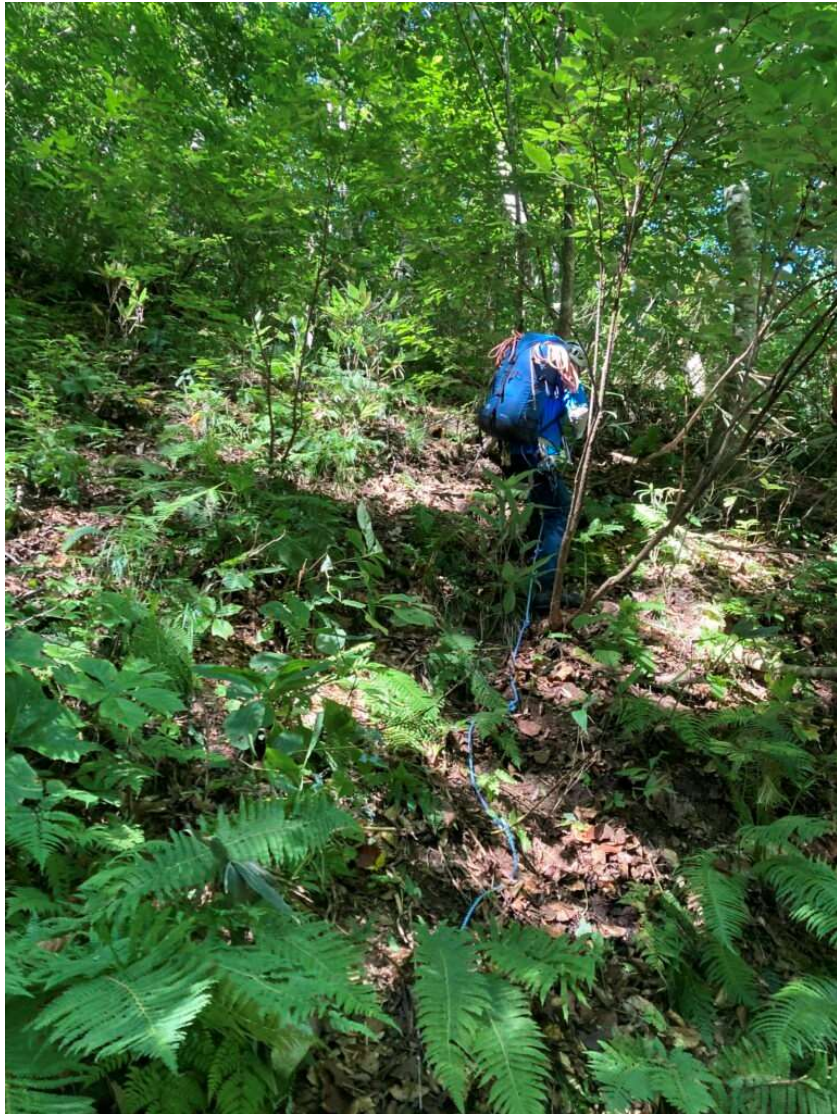
目が覚めたのは5時過ぎだった、、
スマホの目覚ましアラーム音は沢の音に掻き消され1時間全く気が付かなかった、、

やる気をなくし、笠ヶ岳への詰め上げを諦めて、幕営地の横の斜面から登山道に上がり、暑くなる前に下山することにした

8:00 出発

9:00 頃登山道に出た

藪は薄めで踏み跡もあり、よいエスケープルートだった

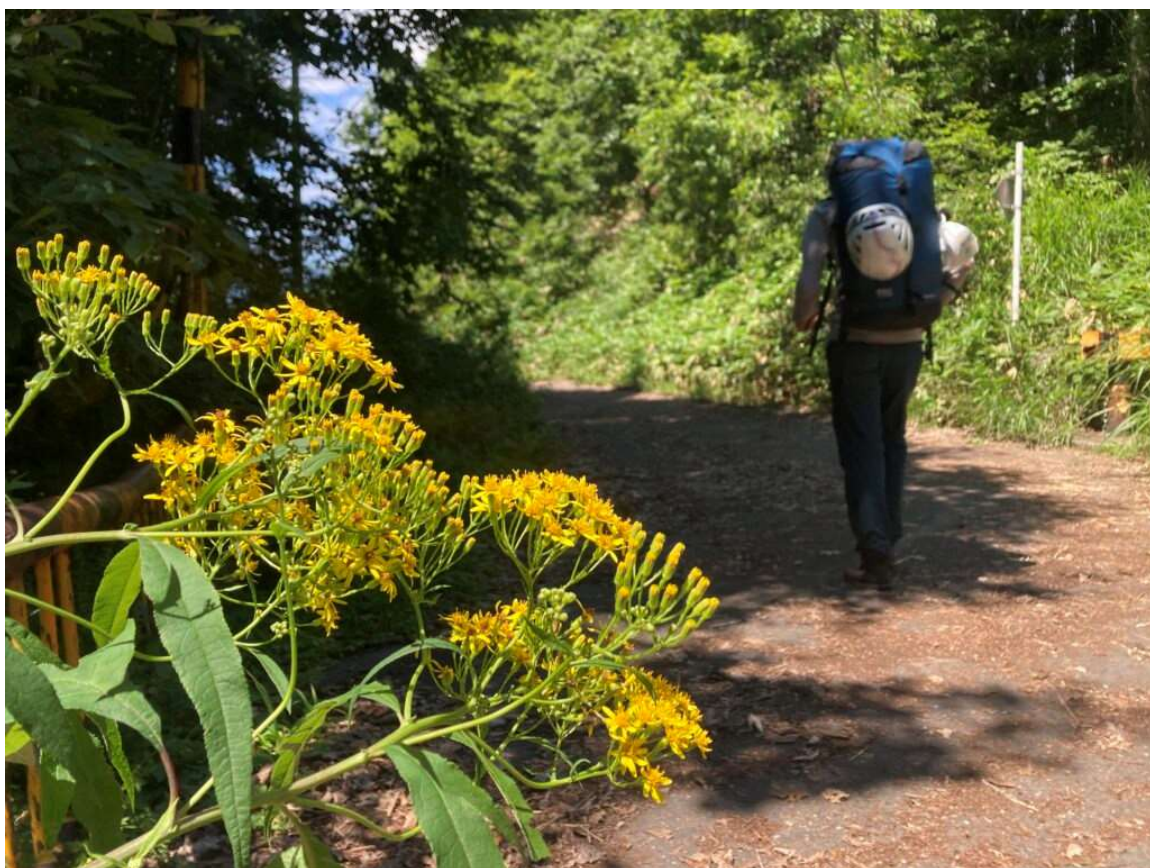


幕営地横の斜面。最初だけちょっと急斜面

登山道を下っていると暑い！

今日も晴天

山頂に向かっていたら熱中症になっていたかもしれない(という言い訳)



秋の花が咲いているが、猛暑

11:40 駐車場着

装備:20m ロープ(滝などでは未使用)、2 人ともラバー

終始癒しの沢だった。初めての泊まり沢にちょうどよいかもしれない。 (野口)

追記) 透明度の高いエメラルドグリーンの美しい溪に終始うっとり。流れも穏やかなので釣りをしない & 日帰り山行ならジャブジャブ泳ぎたかった。痛恨の寝坊で山頂は断念したが、下山後の暑さを振り返ると敗退で正解だったかも。でも沢から笠ヶ岳は昨年からの計画倒れに終わっているのでリベンジしたい！(木嶋)

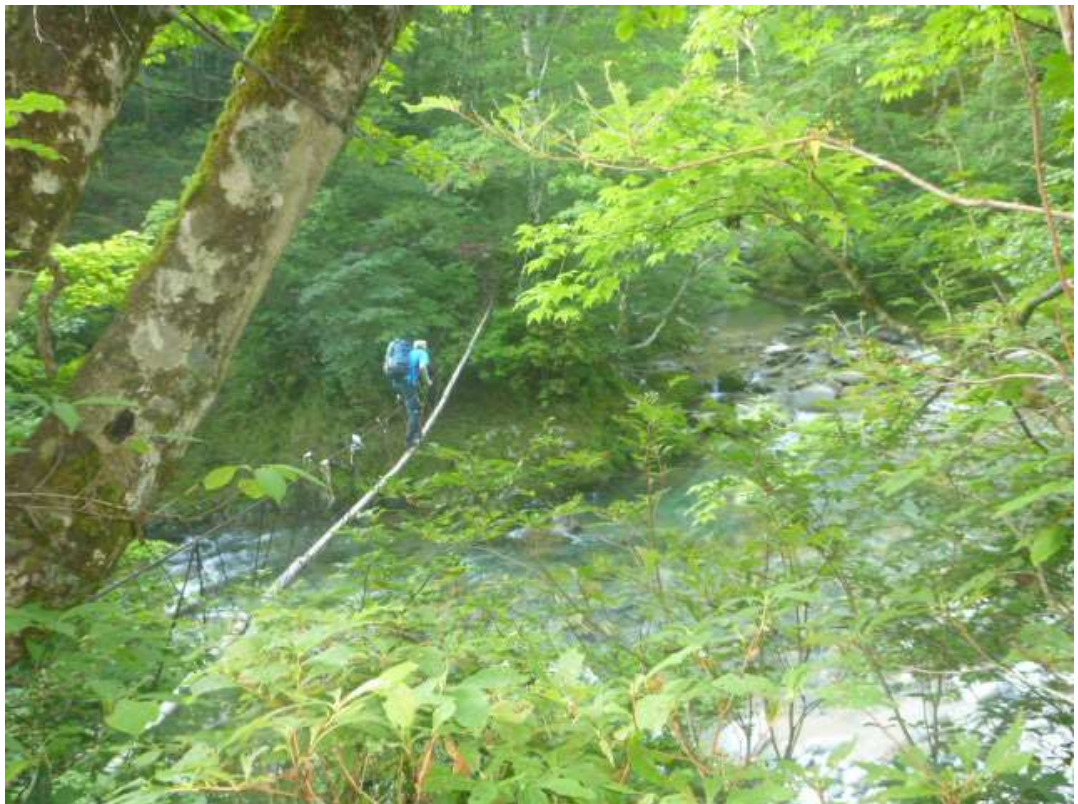
朝日前衛峰 祝瓶山 荒川支流角檜沢下ノ沢（沢登り）

2025 年 8 月 24 日(日)

メンバー L 海老名、野口、曾我

酷暑の中、荒川支流角檜沢下ノ沢を遡行。角檜沢下ノ沢の存在は沢登りを始めた頃から知ってはいたが中々機会が無く今回ようやく縁が巡って来た。長時間行動が予想される為、出発は早めの 6 時過ぎ。針生平から歩き始める、荒川の流れとブナの森がとても美しく改めて朝日連峰水源の溪の良さが感じられる。荒川を 3 箇所吊橋を渡ると角檜沢の出合である。角檜沢に入りししばらく行くと溪は狭くなり連爆帯が始まる。

下ノ沢に入ると更に溪は狭くなり、今回唯一高巻きとなった 20m 滝は右岸から巻く。下ノ沢から源頭までは短いながらも急峻な地形であり、滝から滝の連続で飽きることのない遡行である。丁度いい難しさであり、概ね楽しく登れる。820m 地点二俣は右の涸れ滝をロープを出して登った。この辺りから源頭の雰囲気となり稜線も望まれるが、ここからが長かった。草付きのスラブが嫌らしく歩が進まない……バイルも足も今一つ決まらない。上部スラブ帯が一番悪かった。稜線に出ると祝瓶山の山頂がすぐそこであったが下山時間が気になり山頂は踏まずに下山した。 (海老名)





白毛門沢 公募山行(沢登り)

2025 年 8 月 31 日 曇り時々晴れ

メンバー：Ldr 海 B、中 M、曾 G、野 G(記)、ゲスト 2 名(N さん、Y さん)

久しぶりに行われた公募登山の沢登り

この日まで、企画、ゲストとの連絡やり取り、顔合わせ、下見、練習沢山行などと、だいぶ手間をかけて準備してきた海 B リーダーには本当に頭が下がる

結局、3 名の応募に対して 2 名になってしまったが、それでも 2 名を迎え開催された
(1 名は山岳保険の関係で不参加)

当日、車 2 台に乗り合わせ、白毛門登山口に到着

6:45 簡単な挨拶など交わし、ゲストに不足装備などを貸し出し、いざ出発

6:50 堰堤を1つ越えてから東黒沢へ入溪

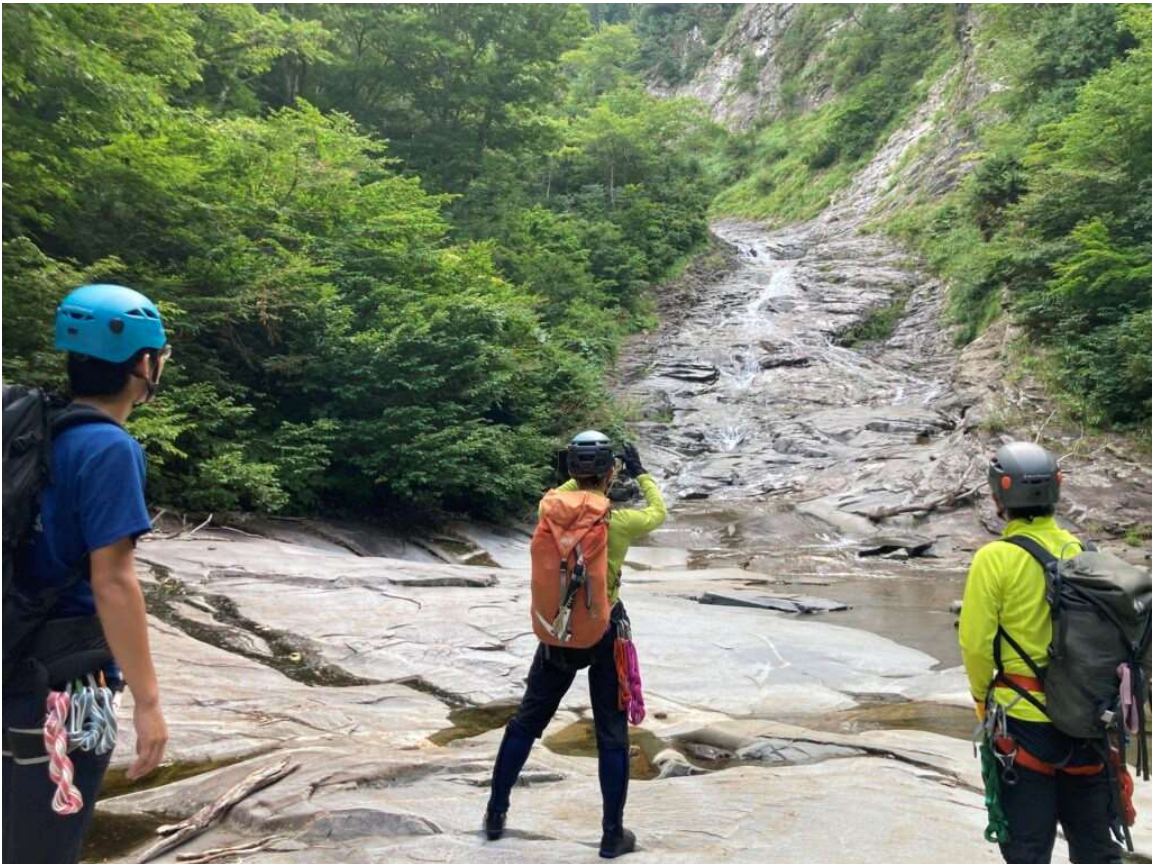


ゲストは男性2人

女性の場合、初めて入溪すると、「きゃ、冷た〜い」などと黄色い声上がるが、男性なので「気持ちいいですねー」くらいの低音ボイス

7:10 さっそく華化(ハナゲ)の滝（鼻毛ではない）に到着

フリーで登れる傾斜だが、念のため海 B さんがロープを引っ張って登り、確保してゲストに登ってもらう

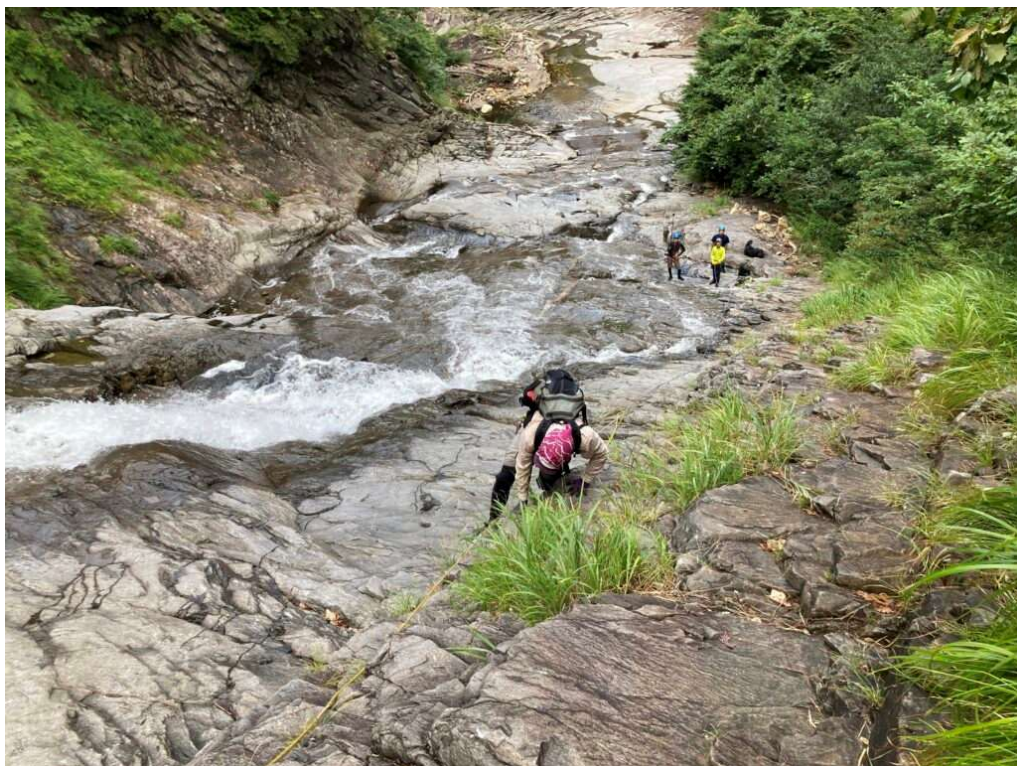


ゲストの N さんはクライミングをされており、Y さんは釣り師で前から沢に入っているそうだ

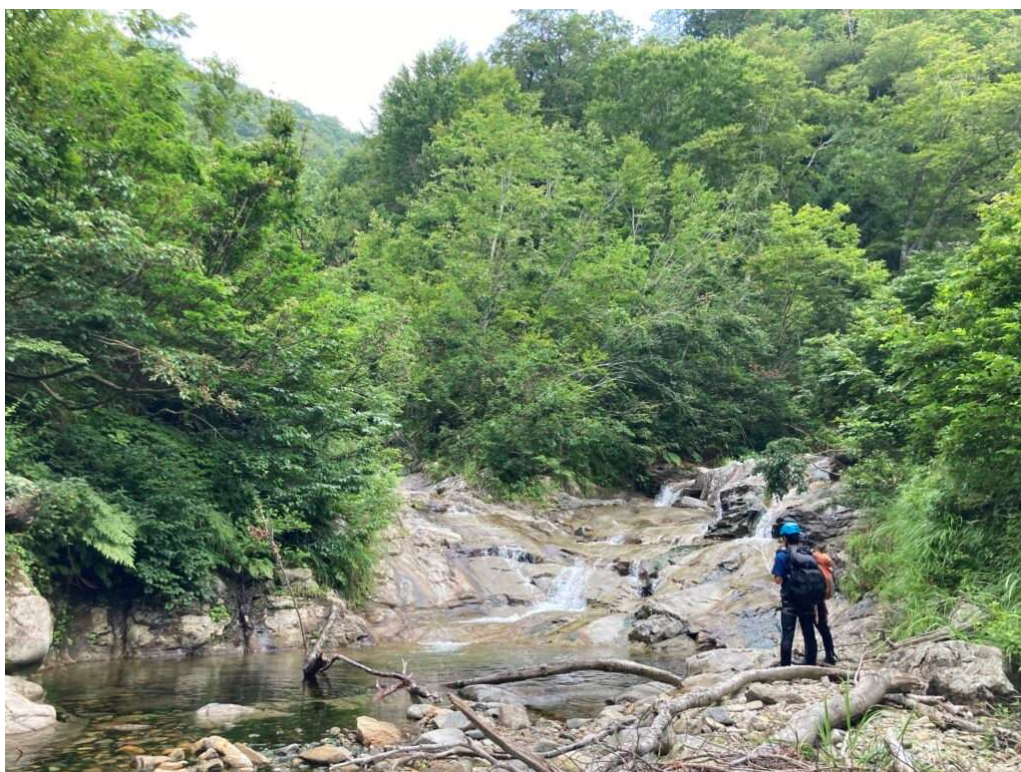
Y さんが危なげない足取りでスイスイ登ってくるが、海 B さんの肩がらみでの確保が追いつかない
登って来るゲストの足元はロープがだらんと弛んでいる

「ロープを弛ませないようにゆっくり登って！」との声掛けもあまり意味が理解できなかったようだ
とりあえず弛んだロープを手を持ちながら登りきった

ロープをフィックスしてタイブロックで登ってもらえばよかったのか？もっと講習みたいなことをした方がよかったのか？難しいもんじゃのー



7:40 白毛門沢出合

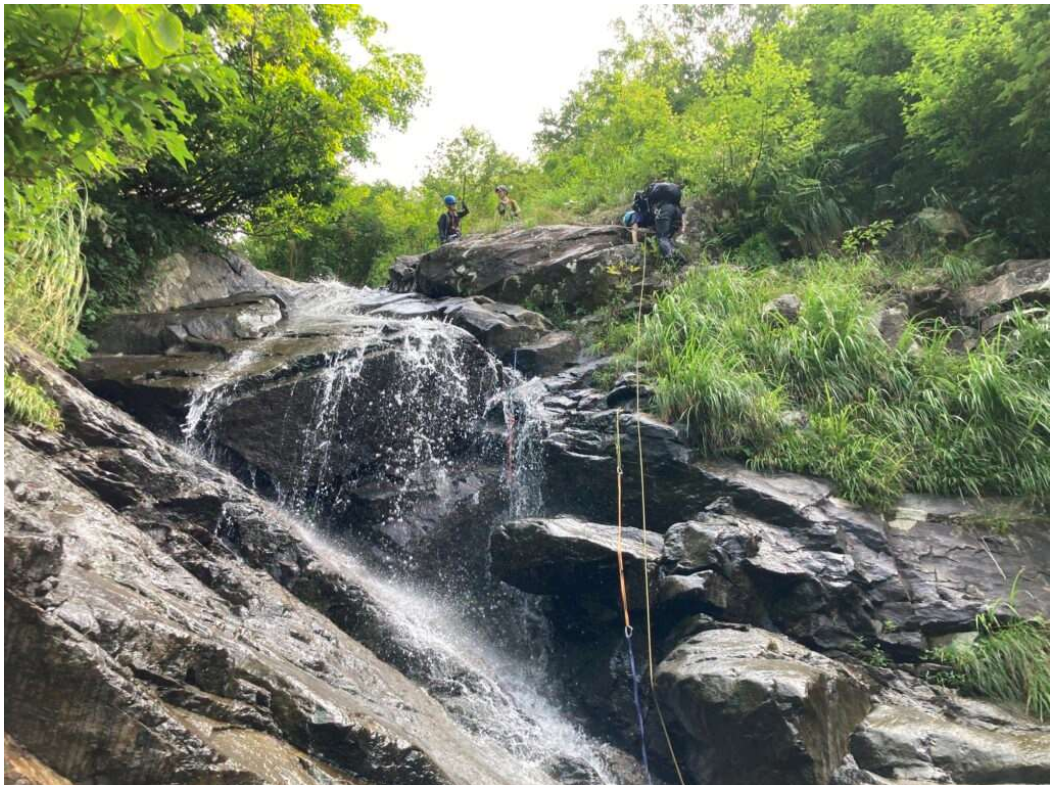




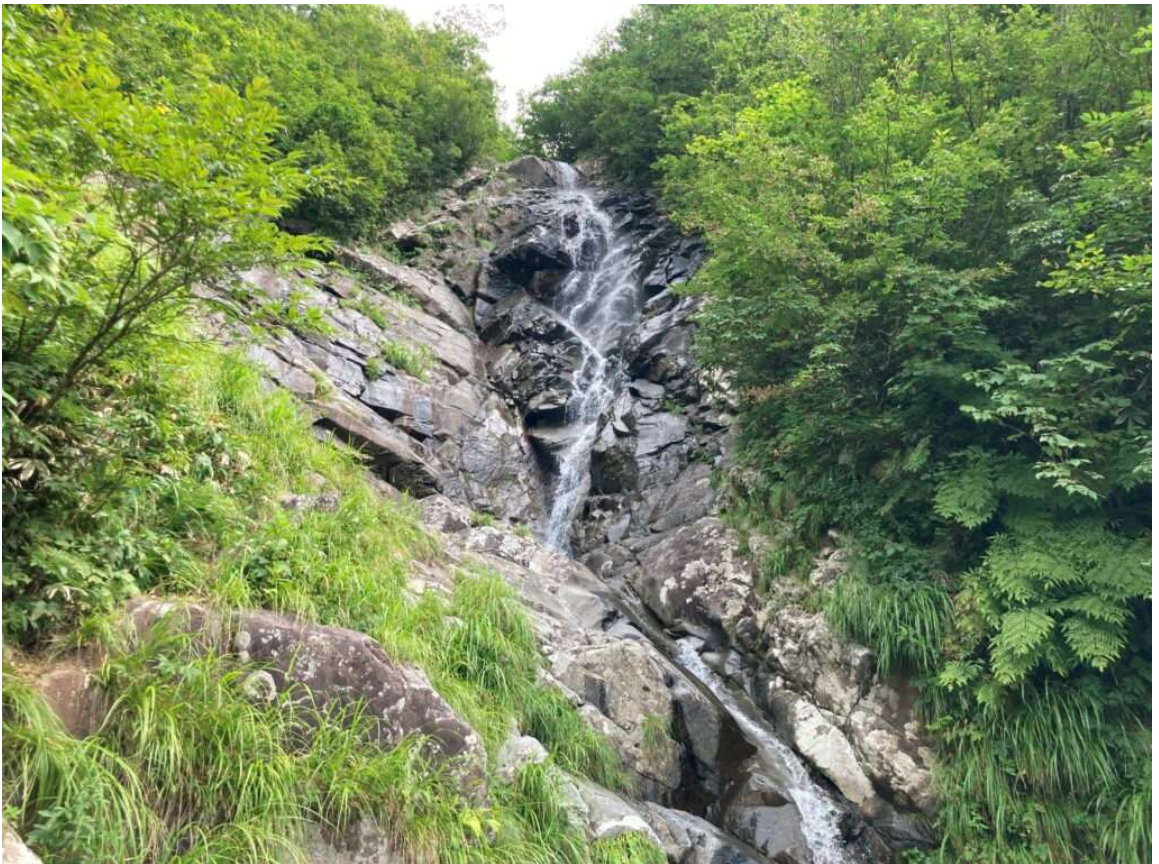
水量は少なめ

大きめの滝が出てきて、海 B さんリードで水線際を登り、中間支点にお助け紐を配置し、確保しつつゲストに登ってもらった

二人ともちょっと手こずったが問題なく抜ける
さすがにここは会員もロープを使って登った



10:00 タラタラのセン は右岸を高巻いた



意外にもゲストが高巻きを楽しんでくれたように感じた

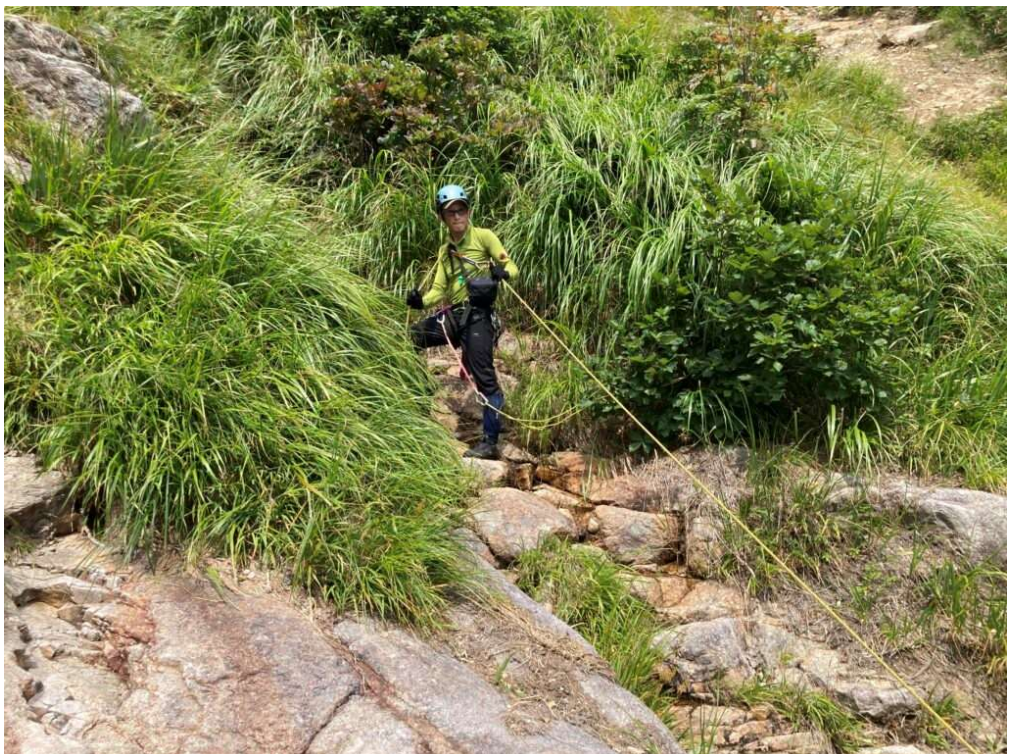
なんだかちょっとわかる気もする

クライミングも尾根歩きも人口的なところに行くが、高巻きは登山道を外れ、さらに歩きやすい沢筋からも外れて、落ちたら危なそうな傾斜や木の枝の間など、道なき道をルーファイしながら進むのだ
冒険感があるし、滝登りよりも恐怖心がないから楽しめるのだと思う

これが何度も高巻きしてると滝登った方がはえーよ、とスレてくるのだが。。

12:30 頃 水が枯れ、源頭のスラブ登りとなる

1 箇所、ロープを出す



ぐいぐい傾斜が強くなり、ぐいぐい高度を上げ
谷川特有の低い笹藪をかき分け
13:00 白毛門山頂にダイレクトに詰め上げた
これは気持ちいい

記念撮影と大休憩をした後、黙々と下山
この日は曇りだったのだが暑かった
風がなかったこともあり、若い N さんや若くもない曾 G さんは滝のような汗である

熱中症に警戒しつつ休憩しながら
15:40 登山口に下山

風呂は、湯テルメ谷川が 2025 年 3 月末で営業を終えたため、残る1軒の日帰り風呂「鈴森の湯」へ
(もう 1 軒あるが狭い公衆浴場なため複数人が一気に入れない)
鈴森の湯は、日曜夕方ということもあり駐車場の外に車が並ぶほどの混雑ぶり
(しかし風呂はギュウギュウではなかった)
入浴料は 900 円。。足元見てるなコンチクショー

鈴森の湯でご飯も食べ、その駐車場で笑顔の解散となった

装備:ロープ 40mx2、ラバー5 人 フェルト 1 人 (詰めのスラブでフェルトは苦戦)

所感

会員募集を目的に始めた公募登山であったが、その趣旨を募集要件に書いてなかったため単純に沢登りの体験山行になってしまった感がある。これは失敗だった。今回リーダーを務めた海 B さんはだいぶ私的な時間を費やしたので、その時間がもったいない気がする。来年も同様に公募登山をするようであれば「山岳会への入会を検討している方」を募集要件としたい。また、本番までの準備(企画、連絡やり取り、顔合わせ、下見、練習沢山行)をできるだけ省エネでできるように工夫したいところだ。

体験してもらう沢も、難易度が高ければ事前練習なども必要になるだろうし、どの程度の沢を対象にするかも含めてもっと議論したいところだ。できるだけ手を掛けず、さりとて退屈されず楽しんでもらって、「この会に入って沢登りをもっと楽しみたいな」と思ってもらいたいものだ。

ちなみにこの山行の後にもゲストの方をクライミングや沢登りにお誘いしており、先日入会意思ありと伺った。ゆるいアフターフォローも公募登山とセットで考えた方が良いのかもしれない。

● 会費について

☆会員 年会費 4,000 円（夫婦会員は2人で 6,000 円）
山岳保険料 4,490 円～ 月割可（詳細は池上か中村まで）

●万代市民会館集会室利用方法

最初に来館した人は、4階ロッカー室の稜友会の棚から、当日の日付が書いてある利用許可書1枚を持って1階受付に提出し、必要事項に記入の上、部屋のカギを受け取って会場に入ってください。

●必ず守ってください

山行計画書、下山報告共に
中村・須藤まで
メール・携帯電話等で連絡の事

次回原稿締め切り9月30日（火）三木さんまで

●原稿形式

基本 Word で行先（形態）、日付、メンバー、本文、作成者に写真を添えて作成をお願いします。

例

鳥海山湯ノ台口（山スキー）

2000年6月3日（土）～4日（日）

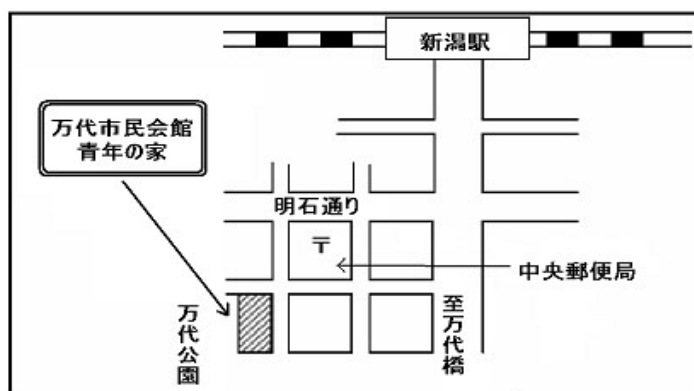
メンバー L. 橋本、

本文

（橋本寅信）…作成者。本文末にカッコでフルネーム

新入会員募集中！

毎月第3水曜日 PM7:30～万代市民会館4階の「青年の家」にて集会を開催しています。気楽に顔を出してください。詳しくは、TEL 080-9444-3190 中村 まで



[編集後記]

暑くなってから下山が楽な、もしくは下山のない沢を探している。そもそも沢登り後の下山が好きではない、ということもある。最後まで沢を詰めず、途中で支沢に入り、車道へ出てデポした車で下山する、そんな山行だ。あまり記録のない支沢に行くのだが、なかなかこれが面白い。なにが出てくるかわからないところを攻略する楽しさだ。室谷川の支流の更に支流に面白そうなゴルジュ地形を地形図で見つけた。いつか行きたい。わくわく♪

.....
月報「稜友」September2025 No.366 2025 年 9 月 13 日 発行

発行者 新潟稜友会 代表 中村 政道

〒945-1432 柏崎市善根 1573 Tel 025-727-3336
.....